

- 北海道大樹町のベンチャー企業、インターステラテクノロジズ(株)は、**超小型人工衛星打上げ用ロケット「ZERO」の開発が目標（2023年打上げ）**。
- **観測ロケット「MOMO」を開発し、今年5月の打上げが成功**。民間企業単独で開発したロケットで宇宙空間に到達したのは、国内では初めて。
- 6月21日に**大樹町を中心とする十勝関係者が**、「ZERO」の打上げに使用する射場の整備・運営を検討するため、**北海道航空宇宙企画（株）を設立**し、道から鈴木知事が顧問として参画。

■ インターステラテクノロジズ(株)

【所在地】（本社）北海道大樹町（東京支社）千葉県浦安市

【設立】2003年（※2013年から現在の社名）【社員数】22名

【代表取締役社長】稲川貴大氏（※堀江貴文氏がファウンダー）

【資本金】3,985万円

（道内からは、北洋銀行、北海道銀行、帯広信用金庫、萩原建設工業、釧路製作所が出資）

【経過】2017年7月：MOMO初号機打上げ（途中で機体損傷、高度20kmまで到達）

2018年6月：MOMO2号機打上げ

（機体の不具合により、打上げ直後にエンジン停止、落下炎上）

2019年5月：MOMO3号機打上げ

（飛行時間8分35秒、**最大高度113.4kmに到達**）

2019年7月：MOMO4号機打上げ

◆ 小型ロケット開発内容に関する説明会（2019年5月）

道内企業のロケット開発に対する理解を深め、今後の宇宙ビジネスへの参入を促進するため、インターステラテクノロジズの開発内容に関する説明会を開催し、マッチングの機会を提供（道内金属加工メーカー等15社が参加）

観測ロケットMOMO3号機



衛星打上げ用ロケット「ZERO」



（画像はインターステラテクノロジズ提供）